

ドスケベ爆乳レイヤーユイちゃんは  
セフレのチンポの虜のようです。

ドスケベSS製造機

## 目次

撮影イベントで発情するドスケベ爆乳コスプレ イヤー・ユイちゃん .....	1
ユイちゃんとヤリチン先輩の交尾関係 .....	7

## 撮影イベントで発情するドスケベ爆乳コスプレイヤー・ユイちゃん

高坂ユイナは今年で19歳になるレイヤーさん。コスプレネームはユイとって、新進気鋭ながらカメコの間ではすでに大好評を博しています。

チャームポイントは清純そうな黒髪ロング、高校を卒業したばかりの幼さを残したかわいいお顔。

そして、それらとは裏腹にメスとして熟れきった男好きのするムチムチぷりぷりのカラダです。

身長は150cmあるかないかにも関わらず、おっぱいはなんと100cmオーバーのGカップ！

くびれた腰は太すぎず、細すぎず。お尻にしても90cmは下らない、まさに極上のデカ尻です。

そんなはちきれんばかりのスケベなカラダを、好んでロリ系の衣装に包みこむユイちゃん。

柔らかい牝肉がはみ出すようなあられもない痴態に、周りを固めるカメコたちも堪ったものではありません。

この日のコス、流行のソーシャルゲームの人気

キャラクター。

黒を基調としたへそ出しルックのノースリーブセーラー服に、超ミニの股下3センチマイクロミニスカート。ロングの黒髪はツーサイドアップに結ばれて、肘から先には長手袋。すらりと長いむっちり太ももは黒いニーソックスで覆われて、腰回りでは下着の紐パンが丸見えです。

おまけに、たっぷりとしたおっぱいを押さえつけるものはなにもありません。ユイちゃんがヒールの音を立てて歩くたびに、頭の上の黒うさ耳とおっぱいがゆさゆさと揺れる有り様です。

さらに薄手の衣装はムチムチのカラダを強調するように食いこんでいるものですから、観衆の興奮も最高潮！

股間にチンポをおっ勃てたカメコたちのスケベな視線を受け止めるユイちゃん。間髪入れず、一斉にシャッターを切るカメラにムチムチのカラダが晒されます。これには思わず肌を火照らせ、恥ずかしそうに頬を赤くしてしまいました。

「あんまり……下ばっかり見ちゃだめですよ？」

そんなうぶなところがまたオタクたちには堪りません。ユイちゃんが清純派爆乳美少女コスプレヤーと称賛されるゆえんです。

清純な美少女がこんな格好をするはずもありませんが、それはそれ。

大切なのは、ユイちゃんが筋金入りのオタクであるカメコたちを軽蔑せず、恥じらいながらも微笑みと愛嬌を振りまくところですよ。

甘やかされれば調子に乗るのがオタクという生き物。集団心理も相まって、ユイちゃんを囲うカメコたちは卑猥なリクエストを口にしました。

「——ちょっとだけですからねっ」

これにもドン引きしないのがユイちゃんです。恥じらいの微笑みを絶やさずのまま、ユイちゃんは頼りないマイクロミニスカートをそっとたくし上げました。

むき出しになる頼りない紐パンと、剃り跡もないキレイな股間。むっちりとした太ももが隣り合うクロッチには、一本線のマンすじがくっきりと食いこんでいるのでした。

ユイちゃんのスケベな下半身を狙い、一斉にフラッシュが焚かれます。

美少女爆乳コスプレイヤーのとっても大胆な露出パンチラ写真。それは今日にもインターネット上にアップロードされ、数多のオタクの精子を奪い取ることでしょう。いえ、今にもイベント会場のトイレに駆けこんでいるカメコは少なくありません。今は自制しているカメコたちも、そう遠くなくセンズリをコクためにこの場を辞することでしょう。

「これ……で、いいですか？」

はにかみながら、リクエストに応じて様々なポーズを取るユイちゃん。体育座りであったり、ぶりっ子ポーズであったり、大胆に股関節を開くポーズであったり、他の過激気味なレイヤーさんと絡んでみたり、思わせぶりにスカートの裾を摘んでみたり。

挙句の果てには棒状のものをコスコスと上下するジェスチャーをさせられたりと、枚挙には暇がありません。

そして、卑猥なポーズを演じる今この時さえ、ユ

イちゃんはオタクの粘っこい精子を何千億と搾り取っているのです。

もちろん、ユイちゃんはスケベな目で見られていることをわかっています。たくさんの男たちのオナペットにされていることを知っています。

けれども、ユイちゃんはそれが嫌いではありません。いえ、表立って言ったりはしませんが、本音をいえば大好きです。

自分を囲うカメコたちが、自分のカラダに興奮して、揃ってチンポを勃起させている——その事実と、彼らの肉欲に満ちた視線を浴びせられて、ユイちゃんのカラダは淫らな火照りを帯びてしまうのです。  
(下着……染みになってない、よね……♥)

そんな不安を覚えつつも、ぷりぷりの瑞々しいカラダを惜しみなくカメラに露出するユイちゃん。

大きく伸びをするポーズで、全身写真を撮ってもらいます。

火照った肌、すべらかな腋、はみ出た横乳、ぷっくりと衣装に浮いた勃起乳首、むちむちの太もも、

わずかに湿ったマンズジ、オマンコを隠す紐パン、  
愛らしくはにかむ天使の笑顔。

その全てを写し取った一枚の写真は、まさに極上のオナネタ——ひいてはネット上で、ユイちゃんのオナペットアイドルの座を確かなものとししました。

ですが、ユイちゃんの痴態を食い入る様に見つめながらザーメンを搾り出す男たちは知るよしもありません。

頼りない下着一枚に隠されたユイちゃんのふにふにオマンコは、もう何度もヤリチン男の精子をたっぷりと吞まされているのです。

## ユイちゃんとヤリチン先輩の交尾関係

たくさんの男性の欲望の視線を注がれて、すっかりカラダを熱っぽく火照らせたユイちゃん。

イベント終了後、むちむちのカラダをもてあましたまま、衣装を着替えもせず待ち合わせ場所に向かいます。

そして、会場内ですがほとんど人気はない物陰に、ユイちゃんの待ち人を見つけることができました。

「先輩……来てくれたんですねっ」

人目を忍びながらもユイちゃんが嬉しそうに挨拶します。

「おう。いいねえ、ユイ。めちゃくちゃカワイイじゃん。エロいし」

相手は、先ほどまでユイちゃんを囲んでいたカメコたちとは似ても似つかない一人の男性でした。垢抜けた服装やこざっぱりとした茶髪、日焼け肌、気易い言葉遣いなど、明らかに別の人種であることが一目で見て取れます。いわゆるチャラ男目に属します。

ユイちゃんが先輩と呼ぶ彼は、ユイちゃん……高

坂ユイナが通う大学での先輩後輩の間柄でした。

ユイちゃんは衣装のままじゃれつくようにムチムチのカラダをカレに押しつけます。すると華奢な腰が抱き寄せられて、柔らかい唇が強引に奪われました。

「ん……ん、う……っ♥」

おたがいに顔をかたむけて、人目をはばかりつつも、とっても情熱的なキスを交わします。

ぴったりと密着した唇。ぴちゃぴちゃにちゃにちゃと響き渡るねちっこい水音。絶え間なく行き違いする男女の舌使い。どれをとってもラブラブなベロチューです。

たっぷり五分間も続けられたキスは、ふたりの間柄が単なる先輩後輩ではなく、ましてや恋人ですらない、肉欲にまみれた関係であることを物語るものでした。

「ふ……っ……あ、ん……もお……っ」

唇を離れたあともムチムチのおっぱいを好き放題にこね回されるユイちゃん。おっぱいに食いこまされる指をいやがりもせず、鼻にかかった甘い息を漏らします。

すっかり発情したカラダをもどかしそうに揺らし、発情期の猫みたいに擦り付け始めるユイちゃん。

その火照りを目の前の男性が鎮めてくれると、彼女は本能的に——あるいは経験的に知っているのです。

「ほんっと、ユイはキス好きだよな。ほら、もう発情しちゃってんだろ」

ユイちゃんはぐうの音も出ないみたいです。すっかりサカリのついたところをなだめすかされながら、近くの男性用トイレに連れこまれてしまうユイちゃん。

中にはむっとした熱気が立ちこめていました。心なしか異臭も感じられるように思えます。

きっと少なくないイベント参加者たちが、貯めこんだ精子をしごき出したのでしょう。

「何十人もここで、ユイをオカズにチンポシコってたんだろうね」

そんな風にささやかれて、恥ずかしそうに顔を赤らめるユイちゃん。でも、はにかんだお顔はどことなく嬉しそう。

そのまま軽く手を引かれ、ユイちゃんはいやがり

もせず洋式の個室のひとつに入ります。いくら広いからといって、身障者用の個室を使ってはいけません。

そのまま鍵をかけられれば、狭い密室に男女がふたりきり。

本当はふたりしてラブホテルに直行する予定でしたが、ユイちゃんの発情ぶりに押されてしまった格好です。

「まずは一発、精子入れてあげっからね」

「……はい♥ ほしいの……♥」

ほのかに香る精子臭さも、もはや興奮のアクセントでしかありませんでした。ユイちゃんは恥じらいながらも、悦んでむちむちのカラダを開きます。

誰よりもオナナの部分を悦ばせてくれるセックスフレンド。濃密な交尾関係。チンポとマンコで繋がった卑猥な間柄の相手に、もはや遠慮はいりません。

トイレの壁にもたれかかったまま、後ろからおっぱいを散々にこね回されるユイちゃん。薄手の衣装では、その感触も弾力も隠せたものではありません。

おもちのようにかたちを変える弾力は、触れる手

を存分に楽しませるものでした。

好き勝手におっぱいをもてあそばれる被虐感に、ユイちゃんの興奮も高まるばかり。

「先輩……ここに……♥」

おめめをうるうると潤ませて振り返り、唇を突き出し、再度のキスをおねだりします。

ちゅっ。ちゅぱ、ちゅぱ、ちゅぷっ……。

肉欲にまみれた愛情たっぷりのディープキス。ふたりを阻むものはなにもありません。

他の個室に人がいる可能性など考えもせず、一心に濃厚な口付けに溺れます。

唾液の糸を引いて離れたとき、ユイちゃんはずっかり蕩けたお顔になっていました。おマンコにチンポが欲しくてしかたがないメスの表情です。

その時、逞しい腕にぐいと片脚を抱え上げられます。超ミニのスカートがぺろんとめくれ上がり、頼りない紐パンがあらわになってしまいました。

「これは没収な？」

「あ……♥」

意地悪なセフレの手によって、下着がさっと取り払われます。

むき出しにされるつるつるぷにぷにのおマンコ。  
シミひとつないキレイなメス穴からは、すでにとろ  
とろのマン汁が滴っていました。

「すっげ濡れてんじゃん。パンツもシミついてっし。  
そんなにセックス期待してたんだ」

「あん……やあん……♥」

ユイちゃんは困ったようにまゆを下げて言葉を  
濁します。いくらスケベなユイちゃんでも、直接言  
わされるのは恥ずかしいようです。

ですが、その甘く上擦った声には、ユイちゃんの  
いやらしい期待がはっきりとにじみ出ていました。

ユイちゃんの汁付き紐パンが大事にしまわれた  
あと、代わりに逞しくそそり立ったセフレチンポが  
突きつけられます。

丈にして17cmは下りません。幹周りも野太く、  
傘が力強く張っています。龟头は薄く黒ずんでいて、  
使いこまれた歴戦の威風を漂わせています。

淫水焼けした女泣かせのカリ高ドス黒チンポ。並  
み居る男とはものが違います。このチンポこそが、  
ユイちゃんのぷにぷににおマンコを一発で陥落させ  
たのです。

「あは……♥」

それを目にしただけで、ユイちゃんは思わず目をみはりました。キュンとおマンコがきつく締まり、包皮に覆われたクリトリスがちいさく勃起します。

「ほら、ユイの大好きなチンポだよ。こいつでおマンコめちゃくちゃにされたいんだろ」

ユイちゃんは思わず喉を鳴らし、音を立てて生唾を飲みます。

そして、こくと素直に頷いてしまいました。

彼の指摘はまったくの凶星でした。ユイちゃんはこのチンポが大好きでした。おマンコを幸せなアクメに導いてくれる、極悪なセフレのヤリチンチンポがユイちゃんの大好物なのでした。

「いつもみたいにねだりしてみろよ。セックス、したいんだろ？」

カレのいじわるな言葉に、切なげに眉をひそめるユイちゃん。でも、おマンコから子宮をつきあげてくる交尾欲求には抗えません。

ユイちゃんの火照ったカラダは、すっかりチンポを待ちわびているのでした。

むっちり太ももをあげてパツクリを脚を開いた

まま、ユイちゃんはお股に手を伸ばします。

心ない人々からはお股ユルユルと口さがなく言われるユイちゃんですが、おマンコはとってもキレイなピンク色。指にパツクリと割られたおマンコ粘膜にはシミのひとかけもありません。

ユルユルなんてとんでもない。ユイちゃんのおマンコは、セフレチンポを食欲に啜え込むとてもキツキツなスケベ穴なのです。

「ユイの……ここ、に……」

「ここ、じゃないだろ？」

「あは……あんっ……♥」

言いつのる最中、ピンク色の勃起乳首をキュッキュツと摘み上げられるユイちゃん。とっても気持ちよさそうに首筋を仰げ反らせ、ピクピクと腰を痙攣させてしまいます。

ペチペチとむっちりお尻を叩かれながら、ユイちゃんは屈辱のおねだりを口にします。

「ユイの……すけべなおマンコにい……♥ ぶつとくて、おつきな、先輩のチンポ……♥ ズボズボ♥ してほしいのお……♥ ねえ……おねがぁい……♥」

露出度過多のコスプレで、むちむちの爆乳を揺らしつつ、ピンク色のおマンコ粘膜を見せつけておねだりするユイちゃん。

童貞のオタクたちなど見ただけで射精しかねない光景です。ヤリチン先輩のチンポもすでにバキバキに勃起済み。

竿に野太い血管を張り巡らせて、目の前のメスを食い散らかしてやろうと張り切っているようでした。

「よくできました。ほら、ユイの大好きなチンポ、奥まで挿れてあげるかんね」

「……あ、ああ、ああっ……♥」

ぴとっ。

おマンコ粘膜と密着して感じられるチンポ肉の熱さ。硬さ。全てがメスの本能を煽り、肉欲を昂ぶらせてしまいます。いよいよユイちゃんの理性も限界のようでした。

くねくねとスケベに揺れる華奢な腰を、カレの手がめくれたスカートごとがっしり掴みます。しっかり固定されたユイちゃんのお股は、もうヤリチン先輩のなすがまま。

「そお——ら、よっと！」

ジュブンッ♥

ぷにぷにの弾力に守られたスケベな穴は、たった一突きで陥落してしまいました。透明な愛汁をしぶかせながら、ユイちゃんのおマンコは野太いチンポをパツクリと啜え込みます。

「あ、あ、あゝ————っ♥ い、いいつ、んっ…  
…♥♥♥」

全身を弓なりに仰け反らせ、チンポの味わいに悶絶するユイちゃん。何度もハメられたことのあるセフレチンポですが、その快樂はちっとも衰える気配を見せません。

狭っこい入り口を搔き分け、膣天井を搔きむしり、マンコひだを膣奥めがけてこじ開けながら、チンポは呆気無くユイちゃんの最奥に到達しました。

瞬間、ピツタリと密着した雌雄の下腹部、チンポとマンコの結合部がモジモジとくねりながら擦れ合います。それは、ユイちゃんとヤリチン先輩が、女体の一番深いところで交尾——チンポとマンコを擦り合わせ、ネバつく体液を交歓する生セックスを楽しんでいる証でした。

「あー、ユイの子宮口やわっけ……ヒダもすっげ絡んでくるし。やっぱ、ユイのマンコが一番気持ちいいわ」

「あ、あ……あっ……♥ わたひ……もおっ……♥ あんっ……♥ すきい……♥ このちんぼ、すきっ……♥」

撮影会のときからずっと、この極太セフレチンポをもぐもぐしたくて仕方がなかったユイちゃんです。待ち望んでいた交尾快樂を与えてもらえて、やっとのことでご満悦。

愛のない肉欲だけのドスケベ交尾に、ユイちゃんはすっかりハマっている様子でした。

もちろん、それで終わるはずありません。まだまだセックスは始まったばかりです。

最初はごくゆっくりとピストンするセフレチンポ。黒ずんだ亀頭が抜けかけるほどに腰が引かれ、またすぐおマンコの奥まで押しこまれます。

ピンク色のマンコひだがチンポの傘に絡みつき、メス穴からめくれ上がるさまは卑猥としか言いようありません。

「あんっ、あんっ、あん、あっ、あっ……♥♥」

この時すでにユイちゃんは軽度のアクメを極めていました。ピクピクとおマンコ内部を痙攣させて、気持ちよさそうにむっちりお尻を震わせます。

善がり声にも止めどがありません。公衆トイレの個室であることなど気にもとめず、オスとメスの嬌声を存分に張り上げます。

「あっ……♡ ん、おゝ……っ♡ あ、あんっ、あっ♡ はあぁっ……♡」

ユイちゃんのアクメ声は一種独特です。いつものかわいいロリータボイスは鳴りを潜めて、艶っぽく生々しいメスの声が出てきます。それは、ユイちゃんのドスケベな本性の一端があらわれているかのようでした。とてもではないですが、これではユイちゃんのファンも本人とは気づけないでしょう。

女の子の本性はアクメする時にこそ見えるもの。生のチンポとマンコを擦り合わせてオスとメスのお汁を混ぜあわせる生セックス無しには、とても男女の関係になったとはいえませんね。

「ははっ、善がりすぎだろユイ。おら、ユイの好きなのしてやるよ」

「あ、あ、あ……♡ あっ♡ そ、れっ……やぁん

っ♡ やっ♡ あんっ♡ い、イ……っ♡」

不意に腰使いが変化するとともに、ユイちゃんは突然激しく感じまくります。

カリ高のチンポ肉傘にマンコひだを満遍なくこそぎ落とされるような濃厚セックス——それにも勝る強烈な快樂が、ユイちゃんを襲っていたのでした。

「マンコすっげえ食いついてくるし。チンポに飢えすぎだろユイ——あー、精子のぼってきたからそのままチンポ搾っとけよ」

「あんっ♡ あ♡ ああっ♡ イっ♡ いいんっ♡  
イクっ♡ イクっ♡ イっくうっ♡♡♡」

身勝手な命令にも答えられないまま、おマンコアクメに上りつめていくユイちゃん。トイレ全体に響くようなイキ声をあげ、全身をピクピクと震わせま

す。  
ユイちゃんのおマンコを一瞬で追いつめた凶悪な腰使い。それは、ちっちなぷにぷのおマンコの入り口だけを小刻みに、そして執拗にピストンするものでした。

敏感なおマンコ口をニューポニューポとめくれ上が

るほどに擦られては、ハメられ慣れたユイちゃんも堪ったものではありません。ヤリチン先輩の凶悪な黒チンポでやられるのだからなおさらです。

「は……あ……♡ はあぁっ……♡ あぁぁんっ……♡」

たっぷりとおマンコ口周辺のマンコひだを耕されたあと、ユイちゃんの膣口はすっかり蕩けていました。愛汁のみならず白濁した本気汁まで垂らして、ピンク色のマンコ粘膜を湿らせています。

そのすぐ近くでは、勃起しきったクリトリスの頭がぷっくりと鞘から飛び出ていました。

「おら、惚けてんなよ」

「はひっ♡ あっ♡ んひいい……♡♡」

ユイちゃんのおマンコは一度イっただけでユルんでしまうほどヤワではありません。それでもきちんと気付くのは大切なことです。

ぷっくりと膨らんだクリを摘み上げられてしまうユイちゃん。それだけでちいさなカラダが跳ね上がり、むちむちのおっぱいを弾ませます。おマンコはきゅうきゅうと締め付けを強くして、とっても気持ちよさそうです。

クリトリスを摘まれるたびにダラダラとマン汁があふれ、口の端からも涎が零れます。すっかり馬鹿みたいに感じ入っているユイちゃんです。